



時間

Vol.15 No.2 2009

Journal of Chronobiology

生物学

今号の表紙 木本圭子『2009_1005』(2009, 7200×5000pixel)

作者のことば

アートにおける動的表現においてこれまでキネティックなアプローチは多くありますが、私は「生きて動く」という状態変化を表現したいと望んできました。試行錯誤の中でそれは従来の美術の領域を超えて進む必要があることがわかり、そしてリズムやカオスを含む非線形ダイナミクスに行き着きました。非線形システムを構成しそこから現れてくる現象を調べ、表現に展開して行く上で必要になる要素を加えていく。この2つの段階を何度も行き来することで非線形システムの豊かさが自身の体性感覚を鍛え裏打ちしてくれます。またパラメータの決定には状態の分類を押さえた上で、体験や記憶、快さが大きく影響します。ですので、作品が出来あがってはじめて自分が何を望んでいたかを「見る」ことになるのです。(この作品タイトルは制作日時です。)私はこのように豊かな理論と体性感覚を表したいという表現のモチベーションの境界に立って制作を続けています。

表紙全体に広がるのは非線形モデルのカオス軌道をベースにした図像であり、表紙下方にあるのは反応拡散モデルを使って構成した、振動する曲面の映像のスナップショットです。

木本圭子 (きもとけいこ)

多摩美術大学卒業。

2003年作品集『Imaginary・Numbers』(工作舎)出版。

2006年第10回文化庁メディア芸術祭大賞受賞。

2004年ニューヨークにて個展, その他ミラノ、メルボルン等企画展出品。



編集後記

- 例年2号は学術大会の発表論文の抄録を掲載しておりますが、本年度の学術大会はアジア睡眠学会および日本睡眠学会との合同大会として開催され、抄録集は別に出版されるため、15巻2号は総説等を主体としたものとなりました。
- 総説は、1号に続き前年度大会で開催されたワークショップ「様々な時間軸の生態リズムと生物多様性」から生態リズムと48年にも及ぶ周期性について、解説いただいております。ヒトの知覚と時間について興味深い総説を、千葉大学の一川先生にご寄稿いただきました。さらに、内山会員からうつ病の時間生物学、藤会員からは抗リウマチ薬による時間治療、中尾会員他からヒト睡眠覚醒リズムのモデルについての総説をご寄稿いただきました。
- 表紙のデザインが変わって今号が2回目となります。本号は、木本圭子さんの非線形モデルと反応拡散モデルによるアートです。皆様の印象はいかがでしょうか。来年度からは、表紙デザインを会員を含む一般の皆様からの公募から選ぶことになります。詳しくは、本号の2010年度JCS（日本時間生物学会誌）デザインコンペのご案内をご覧ください。
- 編集委員会では会員の皆様からのご寄稿をお待ちしております。総説、技術の解説、学術集会報告、海外便り、研究グループ等、会員の皆様からの積極的なご寄稿をいただけますようお願いいたします。
- 後期も始まり、通常の営みに戻りました。季節は実りの秋です。研究面でも、皆様方の豊かな稔りを祈念いたします。

時間生物学 Vol. 15, No. 2 (2009) 平成21年10月31日発行

発行：日本時間生物学会 (<http://www.soc.nii.ac.jp/jsc/index.html>)

(事務局) 〒162-8480 東京都新宿区若松町2-2

早稲田大学先端生命医科学センター 柴田研究室内

Tel&Fax：03-3341-9815

(編集局) 〒700-8530 岡山市北区津島中3丁目1-1

岡山大学大学院自然科学研究科 生物科学専攻内

Tel&Fax：086-251-8498

(印刷所) 名古屋大学消費生活協同組合 印刷・情報サービス部